



2014年8月28日

独立行政法人建築研究所国際地震工学センター

第112号

〒305-0802 茨城県つくば市立原1 TEL 029-879-0678 FAX 029-864-6777

## 今月の話題

- 第1回中南米研修コース閉講式を開催
- エルサルバドルでの構造実験-第1回中南米地震工学研修コース在外研修-
- 第10回米国地震工学会議(10NCEE)
- アジア・太平洋地球科学学会第11回総会に出席
- 研修生からの手紙

## 研修 データベース

IISEENET(地震防災技術情報ネット)

IISEE-UNESCO レクチャーノート

Eラーニング

シノプシス・データベース(修士論文概要)

Bulletin データベース

## 第1回中南米研修コース閉講式を開催 -エルサルバドル・サンサルバドル-

国際地震工学センター長 横井 俊明

平成26年7月31日に、中南米地震工学研修の閉講式に出席しました。閉講式は、エルサルバドル共和国の首都サンサルバドルにあるエルサルバドル大学の”Salón El Espino”講堂で開催されました。式典には、同大学建築学部学部長のFrancisco Alarcon教授、ホセ・シメオン・カニヤス中米大学の副総長であるCarlos Rivas教授、JICA エルサルバドル事務所次長の佐藤真司氏が出席し、エルサルバドル大学建築学部工学部長 Edgar Peña教授(2004-2005年 地震工学コース)が司会を務めました。



第1回中南米研修コース閉講式  
エルサルバドル・サンサルバドルにて

平成26年6月5日からの全研修期間に参加した14名の研修生、そして、7月21日から、サンサルバドルのエルサルバドル大学で実施した一部の研修(構造実験)に参加した11名の参加者の皆様との心温まる楽しい時間となりました。

日程がきつく、私にとっては体力的にも厳しい出張でした。しかし、式典は素晴らしく、また、”TAISHIN Project”<sup>(注1)</sup>の

現場や世界遺産の”Joya de Cerén”を訪れ、土塗小舞壁の古代技術を見ることができ、忘れがたい思い出となりました。現地でご支援いただきました皆様に、心から感謝申し上げます。

研修生全員が研修に満足し、そして研修生が研修で学んだことや経験したことを自国で更に広めてくれることを願っています。

(注1)2011年10月~2013年9月に実施された JICA 技術プロジェクト「地震に強い居住建設技術改善プロジェクト」

## 地震データベース

2011年3月11日東北地方  
太平洋沖地震

地震情報

宇津カタログ(世界の地震被害)

地震カタログ(世界の大地震の震源メカニズム、余震分布等)

## 論文募集

IISEE Bulletinは、現在地震学、地震工学、津波に関する論文を募集しております。開発途上国に関するものを対象としていますが、それに限らず募集しています。

送って頂いた未発表の論文は、編集委員会と専門家による査読を行います。投稿料は無料です。

是非チャレンジして下さい。



## エルサルバドルでの構造実験

### -第1回中南米地震工学研修コース在外研修-

国際地震工学センター 上席研究員 犬飼 瑞郎

中南米地震工学研修の後半に、在外研修が、エルサルバドルで実施されましたので、ご紹介します。在外研修の場所は、エルサルバドル共和国・サンサルバドル市に位置する国立エルサルバドル大学(UES)と私立ホセ・シメオン・カニヤス中米大学(UCA)でした。



写真1: コンクリートブロックを用いた  
枠組組積造実大壁試験体(右側の白い部  
分)の加力準備(UCA 実験棟)

在外研修は、7月21日から7月31日まで実施されました。講義では、エルサルバドルで使用される建築材料を用いた構造実験への参加を中心として、コンクリートブロックを用いた枠組組積造壁等、建築物の構造体の一部が、地震を想定した外力により破壊されるまでの経過を、全研修生が、UESまたはUCAの先生から指導されました。

構造実験は、2003年～2012年までエルサルバドルにおいて実施された独立行政法人国際協力機構(JICA)の技術協

力プロジェクト“TAISHIN Project”における研究成果・機材投入を踏まえていて、UESまたはUCAの先生及び施設の高度な技術により、実大試験体、材料試験体等が、設計・加力され、着実に破壊されました。

写真1はUCAでのコンクリートブロックを用いた枠組組積造実大壁試験体の加力準備風景です。研修生の皆さんは、大変熱心に実験に取り組み、質疑も積極的でした。

写真2はUESでのコンクリートブロックを用いた枠組組積造壁試験体の加力準備風景です。ここでは、研修生が計測装置取り付けから参加し、加力中も、計測やひび割れ観測に積極的でした。



写真2: コンクリートブロックを用いた枠組組積造壁試験体の加力準備(UES 実験棟)

その後、講義室に移動して、実験結果の概要の説明を先生から受け、各国の枠組組積造の基準の概要についての情報交換が行われました。他に、エルサルバドルにおける“TAISHIN Project”中に建設された1階建てモデル住宅の視察も、JICAエルサルバドル事務所のご協力により、行われました。

## 第10回米国地震工学会議(10NCEE)-アラスカ-

国際地震工学センター 主任研究員 鹿嶋 俊英

平成26年7月に、第10回米国地震工学会議(10NCEE)に参加してきました。NCEEは、米国の地震工学会(EERI)が4年に一度開催している、地震工学分野の研究集会で、今年は1964年アラスカ地震から50周年を記念して、アラスカ州アンカレッジ市で開催されました。会議では、800編近い論文が発表され、私も2編の論文の口頭発表を行いました。

また会議中、7名の元研修生、Mehmet CELEBI (1975年個別(地震工学)コース、トルコ)、Jorge Fernando MENESES (1987年個別(地震工学)コース、ペルー)、Ernesto F. CRUZ (1989年個別(地震工学)コース、チリ)、Juan Carlos Esquivel (1990-

1991地震工学コース、ペルー)、Yavuz KAYA (2003-2004年 地震工学コース、トルコ)、Ghazala Naeem (2007-2008年 地震工学コース、パキスタン)、Yefei REN (2011-2012年 地震工学コース、中国)と直接会って話すことができ、また、彼らの活躍を知ることができました。

私にとって、元研修生に会えることは、国際会議に参加する楽しみのひとつです。

このニュースレターが出るころ、私は、トルコ・イスタンブールで開催されているヨーロッパ地震工学会議(2ECEES)に出席しています。参加される方は是非声をかけて下さい。お目にかかれることを楽しみにしています。



開会式

## アジア・大洋州地球科学学会第11回総会に出席

-札幌-

国際地震工学センター 芝崎 文一郎、藤井 雄士郎

平成26年7月28日から8月1日まで、札幌で開催されたアジア・大洋州地球科学学会第11回総会に出席しました。国際地震工学センターからは芝崎上席研究員、藤井主任研究員、地震学コース研修員のMukunda氏(ネパール)が参加しました。

芝崎は、「浅部プレート境界断層の低速から高速の摩擦特性を考慮した東北沖におけるスロースリップと巨大地震すべりのモデル化」という題名で、研究成果を発表しました。



楽しむのは今です。



会議場

### 連絡先

IISEE ニュースレターは、IISEEと卒業生の架け橋を目指しています。

ニュースレターへの報告や記事をお待ちしております。皆様の自国でのご活躍をお知らせ下さい。

また、皆様の同僚やお友達もこのメーリングリストに登録するようにお願い下さい。

iiseenews@kenken.go.jp  
http://iisee.kenken.go.jp





学会会場となったロイトン札幌

藤井は、「検潮記録と沿岸波高に基づく1896年三陸地震の津波波源モデル」という題名で、研究成果を発表しました。



津波セッション会場内の様子(発表開始前)

研修員のMukunda氏は、「ヒマラヤ地域における地震テクトニクスと地震ハザード」というセッションで「ネパールの強震観測網による強震動記録」という題名で研究発表を行いました。

## 研修生からの手紙

✉ *Dr. Jorge Marino Protti Quesada*  
コスタリカ大学コスタリカ火山・地震観測所地震学者  
(コスタリカ、地震学コース, 1983-1984)

プロティ氏は、ラテンアメリカ諸国の地震学の成長を見て欲しいとメールを送ってきました。氏によりますと、IASPEの中南米・カリブ海諸国地震学委員会(LACSC)は、第1回総会を2014年7月23日～25日にコロンビアで開催しました。総会は、前会長であるコロンビアのDr. Carlos Vargas によって開催された第3回中南米地震学大会の一環とのことです。総会でLACSC新会長に選出されたプロティ氏は、2016年に、コスタリカで第4回中南米地震学大会を開催します。

### 第1回中南米地震工学研修コースにご協力いただいた皆様へ

皆様のご協力・ご支援のもとに、初めての上記研修が無事終了いたしました。スペイン語での講義と後半の在外研修という新たな取り組みに挑戦いたしましたが、講師の先生方、視察先の皆様、彼の地エルサルバドルの関係の皆様のご協力のもと、14名という予定の倍近くの研修生を送り出すことができました。これもひとえに皆様のご協力のたまものです。本研修は3年計画で実施しております。皆様におかれましては、来年も是非ご支援・ご指導賜いますようによろしくお願い申し上げます。

国際地震工学センター一同

バックナンバーは  
下記をご覧ください。

<http://iisee.kenken.go.jp/nldb/>